

令和元年度渦森台児童館目標及び報告

渦森台児童館

	目標 (P)		実践 (D)	気付き・反省 (C)	次への期待 (A)
サービスの質の向上	子育て支援の強化	『なかよしひろば』、『すこやかクラブ』など親子館事業での子育て相談の充実を図り、必要であれば関係機関へつなげていく	相談を受けた時には、子育ての経験を活かしアドバイスをしたり 主任児童委員や保健師への相談を促す	・第一子で子育てが初めての方の相談が多かったが職員が相談を受けている時、周りにいるお母さんが話を聞いてアドバイスをしてくれることもあった。 親子館事業で仲良くなり、身近に相談できる方がいることは核家族化の現代では、とても大切なことだと感じている。 関係機関へ相談する案件はなかったが、すこやかクラブの託児で主任児童委員2名がお手伝いに来てくださっている方が多かった。	親子館事業の担当に子育て経験者をプラスし、更に親子が安心してプログラムに参加したり、悩みを相談したりできる環境にして利用者増を目指したい。
		地域のボランティアを募り講座の幅を広げていく	新しい講座を開催することで、子育てに活用したり、保護者のリフレッシュの一環となるよう努める	・子育てで利用しているマクルト販売業者が身体についての講座を行ってくれたことで、保護者は、腸のしくみや菌について興味を持つことができていた。 ・こべっこランドの派遣講座で、「かばうま」が来館し、なかよしひろば親子や近隣保育所のお友達、先生方も一緒に交流しながら楽しめて良かった。	・地域の方からのボランティアの申し出は無かったが、今後も児童館便りや貼り紙等で継続して募集を続けていく。 ・職員の中でも得意分野を活かし何か提供できる力を付けていけるよう工夫していきたい。
		母親同士の仲間作りの援助をし、地域の子育て力アップを目指す	初めて来館された方へも、話しやすい雰囲気で安心した環境の中 仲間作りができるよう配慮する	・初めて利用の方は、事前に利用できる曜日や時間などを電話で聞いて来られる方が多かったが来館された時に、わからない事がないよう担当職員が優しい声掛けで対応できていた為、安心できたと思う。 ・働くお母さんが増え、午前中の利用が減少している。	・児童館で仲良くなった親子が児童館外でも仲良くし、子育ての相談や情報の共有ができるよう今後も仲間づくりの援助をしていきたい。 ・地域の方に児童館の事業をもっと知ってもらい利用が増えるよう魅力ある児童館便りの作成をしていく。
	児童育成の拡充	児童の興味に合わせた行事の継続を行う	・土曜日の午後から、卓球の指導を行う ・毎月1回講師を招いての「論語教室」と素読の継続を行う ・親子活動での論語親子講座を開催する	・1年生から卓球指導をしてきた児童が、6年生の最後の大会で初優勝することができ、とても嬉しそうであった。児童は、低身長児で、障がいをもっているが、自信に繋がったと思う。 ・毎月1回の論語教室開催は、3月以外講師が来てくださり継続できた。児童も旬の漢字やお話が大好きで集中し論語教室に参加できている。 ・平成30年度、好評であった論語親子講座を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となり残念であった。	・今後も、児童の興味や特性にあったものを遊びや関わりの中から見つけ、伸ばしていくことができるようにしていきたい。 ・児童の興味が継続できるよう、素読暗記表をもっと活用し、自分の成果が伸びていく様子が見えるようにしていく。 ・一定の職員ばかりが素読暗記の係をするのではなく、職員全員が興味を持ち積極的に取り組んでいる児童に同調し、気持ちが続けられることがないよう関わっていく。

	目標 (P)		実践 (D)	気付き・反省 (C)	次への期待 (A)
	児童育成の拡充	行事の大切さを知り企画に参加できる児童を育成する	・積極的な行事ボランティア児童の受け入れを行う ・児童主体の夏祭り、おばけやしきの開催をする ・中学3年生の同窓会を行う	・夏祭りやおばけやしきの時期が近づく、高学年の学童や一般児童もお手伝いを申し出てくれ、自分達で役割分担ができるようになってきており頼もしく思う ・高校生になる前に、小学生の時を懐かしみ、新しい学年になっても色々な事にチャレンジし頑張ることができるよう30年度好評であった同窓会を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、行うことができず残念	・職員は、児童が主体で取り組める活動を一緒に考えたり、行事を開催したりしながら、児童の個性を伸ばす援助をしていく ・今後何かに悩んだり、つまづいた時に仲間がいる事を思い出し、少しでも励みや支えになるような仲間づくりができるよう援助していきたい
地域との共生	地域との連携	地域団体との行事開催する	・コミュニティ事業や児童館行事は、各団体と連携し合う ・亦陽云（モハ云）に「七夕会」、「昔遊び」、「おひなまつりお茶会」のご協力をいただく	・地域との共催行事の際には、打ち合わせの時間や実行委員会を設けたことで、行事がスムーズに行えるようになってきている。	・青少協主催のうすっこハッピーフェスタでは、こべっこランドに大型遊具をレンタルしたことが大好評であった。今後も協力し、児童の健全育成に努めたい ・今後も地域の団体と一緒に、伝承行事の大切さや楽しさが伝わっていく様な行事の開催をしていきたい。
		関係機関と密な連絡をする	・小学校、中学校の先生と情報を共有する ・学童過密対策として、小学校の空き教室を利用させていただく	・児童や生徒の事で必要な時には、連絡し合い連携を図ることができた。 ・学童過密対策として、小学校の学習室や図書室を貸していただき、分散保育ができた時には職員数は必要であったが、児童の保育にゆとりのスペースが持て安全に過ごすことができていた。	・次年度も学童登録数が増加している為、小学校の空き教室を利用させていただき、安全な保育が行える様にしたい。
	年間利用数	自由来館 延べ6,470名の受け入れをする	自由来館 延べ4,272名受け入れる	・3月は、新型コロナウイルスの影響で、児童館が閉館になり、自由来館の受け入れ人数が2,200名少なく目標を達成できなかった。	感染症対策として行っている、手洗いがいの励行、児童、職員の検温や体調管理、館内の消毒や換気を今後も継続し、利用される方が安心して過ごすことができる様に努めていきたい。
		学童保育 延べ18,300名の受け入れをする	学童保育 延べ19,148名受け入れる	・登録人数は、30年度と比較してもほぼ同じであったが、1人ひとりの利用回数が多かった為、目標数を約800名上回った。新型コロナウイルスの影響がなければ、更に増となっていた。	・登録人数が増え、雑務に追われがちであるが、1人ひとりの関わりを大切にしていき、児童、保護者ともに安心していただける様な保育を目指していきたい。